

宝生会 月並能 10月公演

平成29年10月8日(日)
午後1時15分開場 午後2時開演
会場 宝生能楽堂

宝生会月並能とは

宝生会の月例能として始まった演能会。能三番(又は二番)と狂言一番で構成され、中堅以上の能楽師のきびしい技能修練の場でもある。

◆入場料 S席[正面]/8,000円 A席[正面]/7,000円 B席[脇正面]/6,000円
C席[中正面]/5,000円 D席[自由席]/3,000円

※30歳未満の学生の方は、全席種1,000円割引でお求めになれます。

◆チケットお申込先 宝生能楽堂 03-3811-4843 (火曜～日曜10～17時)
<http://www.hosho.or.jp>

カンフェティ 0120-240-540 (平日10～18時)
<http://confetti-web.com>

上演中の写真撮影・録画・録音は、固くお断り申し上げます。

五雲会

10月公演

平成29年10月14日(土)

午前11時開場 午後12時開演

会場 宝生能楽堂

◆入場料 一般/5,000円 学生/2,500円

◆チケットお申込先 宝生能楽堂 03-3811-4843 (火曜～日曜10～17時)
<http://www.hosho.or.jp>

カンフェティ 0120-240-540 (平日10～18時)
<http://confetti-web.com>

上演中の写真撮影・録画・録音は、固くお断り申し上げます。

五雲会とは

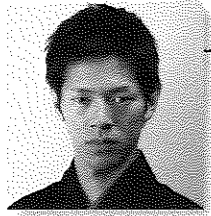
若手能楽師の勉強会として始まった、現在も若手を中心とした演能会。能四番と狂言二番で、清新さと活気溢れる会。

五雲会 10月公演演目

能 枕慈童 (まくらじどう)



……菊水で不老長寿となった慈童の純粋な喜びの舞



シテ (慈童) 藤井秋雅 (ふじい しゅうが)

平成2年生まれ、シテ方宝生流藤井雅之の長男。19世宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。平成6年「鞍馬天狗」花見で初舞台を踏み、平成27年「田村」で初シテを勤める。現在は、和英宗家のもと内弟子として修行中。

狂言 柿山伏 (かきやまぶし) シテ 若松 隆 (わかまつ たかし)

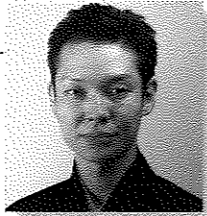
能 小督 (こごう)



……小督の家を捜して嵯峨野に行く〈駒の段〉は見所

シテ (源仲國) 辰巳大二郎 (たつみ だいじろう)

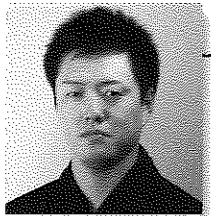
昭和58年生まれ、大阪府出身。シテ方宝生流辰巳孝門の次男。20代宗家宝生和英に師事。幼少より能の道に入り今年で30年の節目を迎え、1月より自身の同門会「橙白会」を主宰し、指導にあたっている。やらなければいけないと気がはやるばかりで、何から手を付ければ良いか分からず攻防中。



能 玉葛 (たまかざら)



……恋に悩み妄執に苦しむ玉葛の心情に共感を覚える



シテ (里女 / 玉葛の内侍) 今井 基 (いまい もと)

昭和63年東京都生まれ。シテ方宝生流今井泰行の長男。19世宗家宝生英照、20代宗家宝生和英、祖父の故 今井泰男、及び父に師事。平成9年「鞍馬天狗」花見で初舞台を踏む。平成24年「経政」にて初シテを勤め、これまでに「翁」千歳を抜く。現在は、和英宗家のもと、内弟子として修行を積んでいる。

狂言 飛越 (とびこえ) シテ 山本泰太郎 (やまもと やすたろう)

能 黒塚 (くろづか)



……見てはいけないものは、見ても良い事がないもの

シテ (賤の女 / 鬼女) 小倉伸二郎 (おぐら しんじろう)

昭和49年生まれ、シテ方宝生流小倉敏克の次男。18代宗家宝生英雄、19世宗家宝生英照に師事。昭和53年「鞍馬天狗」花見で初舞台を踏む。平成11年「草薙」にて初シテを勤め、これまでに「石橋」「道成寺」「乱」「翁」を抜く。重要無形文化財総合指定保持者。実践女子大学講師。シテ方宝生流の若手グループ「禊花会」同人、また自身の同門会「如月会」を主宰する。



宝生会 月並能 10月公演演目

能 梅枝 (うめがえ)



……先立たれた夫を慕う気持ちは、死して尚も思い募る



シテ (里女 / 富士の妻) 辰巳満次郎 (たつみ まんじろう)

昭和34年神戸生まれ。東京都在住。シテ方宝生流辰巳孝の次男。昭和39年「国栖」子方で初舞台。昭和57年「敦盛」で初シテ。大阪宝生流定期能「七宝会」、演能会「満次郎の会」を主宰する他、教育現場への能楽導入や、新作能の演出・主演、海外での能の紹介など、普及活動に力を注ぐ。平成23年度、24年度文化庁文化交流使を努める。

— 能「梅枝」を演じるにあたって —

現在進行形のエピソード1である『富士太鼓』は、太鼓の名手「富士」「浅間」の争いには住吉・天王子、すなわち物部氏・蘇我氏の争いが裏に隠されており、大きな時代のウネリに富士妻子も詮方なしの扱われ方であったかと思えます。

キリ(最後の部分)に「乱れ髪乱れ笠、かかる思いは忘れじ」とあり、やはり執心は後の世まで残り、エピソード2の「梅枝」では執心の亡者となるわけですが、心して勤めたいと思います。

狂言 伯母ヶ酒 (おばがさけ) シテ 山本則俊 (やまもと のりとし)

能 大江山 (おおえやま)



……頼光と酒吞童子、本当の“鬼”はどちらか

シテ (酒吞童子 / 鬼) 今井泰行 (いまい やすゆき)

昭和31年生まれ、シテ方宝生流今井泰男の長男。18代宗家宝生英雄に師事。昭和37年「鞍馬天狗」花見で初舞台。昭和50年「禪師曾我」で初シテを勤め、これまでに「石橋 連獅子」「道成寺」「乱」「翁」を抜く。重要無形文化財総合指定保持者。自身の同門会「吟宝会」を主宰する。



— 能「大江山」を演じるにあたって —

源頼光の鬼退治物の曲で、二場に分かれていながら、「土蜘蛛」「羅生門」に比べると物語設定がしっかりとしていて、判り易い曲です。前場は仕舞所がある位で、身上語りの謡などが中心となり、見所よりは聞き所と感じて頂ければと思います。後場は、酒吞童子が童子の姿から鬼神に変身し、山伏姿から武者姿に着替えたワキとの切り組みとなり、ワキの頼光が主役という感じです。最後に首をとられたシテが切戸から退出するのと違い、ワキに連れられ同幕する所が変わっていて風情があります。見応えのある曲ではありませんが、飽きさせないよう演じたいと思います。

<各種アイコンのご紹介>



上演時間の目安です。



珍しい特別な演目です。



PICK UP 抜き(特別)の演者です。



能楽らしい幽玄な演目です。



初心者にもオススメの演目です。



New Face 初シテの演者です。